

どろんどろんと コミュニケーション



安保法制に思う

Vol.113

小さな市であっても、政治を行って公表しにくいこともあります。公表しない方が市民にとってプラスと思われれることもあります。しかし、民主主義の原則として、主権者たる市民にはその判断の基礎となる情報が十分に知らされる必要があります。

今回の安保法制の問題は、国民が判断するのに十分な情報を知らされていないということが根本にあるような気がします。あれだけ強引に成立を図ろうとする安倍首相ですから、この法案がないと困る大きな理由が存在するのだと信じたい。なぜその理由をはっきりと言えないのか、それが私にはよくわからない。たしかに以前、ロシアからも

韓国からも、中国からも、領土問題で脅かされたことがあり、大変悔しい思いをした日本人は多かったと思います。いざというとき、アメリカは本当に助けてくれるのだろうかと考えた人もあったでしょう。世界の国々からは、日本はお金は出すが人は出さないと批判されたこともあります。まだほかにもあるかもしれませんが、これらの理由を明確にして議論すべきだと思います。

反対する意見は「戦争に向かう法案だ」と言い、首相の答弁は「戦争を未然に防ぐ法案だ」と言うだけで、聞いている国民は判断に迷うということになります。安倍首相は、小泉首相と並んで、久々に

たリーダーらしいリーダーだと思えます。自分の考えを、徹底的に貫くということは、国民から好感をもたれるということにも通じるでしょう。しかし、数を頼んで強引に、しかも都合の悪い意見は聞かないというのは必ず国民の支持を失います。自民党に育ててもらった一人として、安倍首相にはもうちょっと謙虚になってほしいと期待しています。

それにしても、スイスという国はすごいなと思います。永世中立国を宣言し、時代が変わり、住む人々が変わっても、その考えを受け継ぎ、頑として変わらない。他国を攻めることはないが、攻め込まれたときを想定し軍備も怠らざるを得ません。昔から日本には、気は優しく力持ちという言葉があります。普段は喧嘩はしないが、いったん事あれば手強い、と周りの国々から尊敬されるような国造りが理想だと思います。ヨーロッパにスイスあり、アジアに日本ありと言われたいものです。



Vol.140

戦後70年ー語り継ぐ 戦争は最大の人権侵害ー

今、図書館で「終戦から70年鳥羽に見る戦争展」が、8月30日まで行われている。これまで、戦争を語り継ぐいろいろな取り組みが行われてきた。毎年学校で、8月6日・9日を中心に行われている平和教育もその一つである。戦争体験者の話を聞いたりして、少しでも過去の出来事を自分のものとして取り込もうとしている。それぞれの地域で身近な話を聞き、自分に振り返るうとしてしている。子どもの頃の目を通して戦争の思いが語られる。決して思い出したくない戦争のことを、未来のある子どもたちのために思いを込めて語られる。語り口調は決して上手とは言えない。しか

し、子どもたちはその思いを聞き取っていく。

残念ながら私の知るその2人のかたが今年亡くなられた。また、日本で唯一地上戦が行われた沖縄の語り部たちも高齢化のために、今までのようにその活動ができなくなり、次の世代へ引き継ぐ活動への方策が始められていると聞く。今世界各地で起こっている悲惨な戦争を自らのことととらえ、平和な世の中を作っていくためにも、何ができるのか、しっかり考えていく必要がある。進歩だけでなく失われたものをしっかり振り返ることを大切にしたい。多くの命が奪われた第2次世界大戦その傷跡は至る所に残っている。今も世界各地で戦争は行われている。殺さなければ殺される。必然的にその場に追い詰められる戦争。そのことを作り出す場面を作ってはならない。

戦争は遠い地域でのことではなく、地元鳥羽でもその傷跡がある。戦後70年の節目。家族で図書館に足を運んでみてください。また、お年寄りの話に耳を傾けてみてください。先輩はたくさんの知識の宝庫。過去から学び、足元を固め、未来を見つめてください。